



認知言語学を拓く 認知言語学を紡ぐ

2019年
11月発売

森雄一/西村義樹/長谷川明香[編]/A5判/各巻本体4,500円+税

日本の認知言語学を活性化する！
ジャンルの垣根を超えた新領域の開拓へ

【拓く】

石塚政行・長屋尚典・李菲・三宅登之・小嶋美由紀・相原まり子・西山佑司・高橋英光・加藤重広・森雄一・眞田敬介・大橋浩・野村剛史・小柳智一

【紡ぐ】

有蘭智美・小松原哲太・鈴木亨・八木橋宏勇・永澤濟・初山洋介・野田大志・平沢慎也・野中大輔・古賀裕章・本多啓・野村益寛・長谷川明香・西村義樹・井川壽子・張莉・田中太一

認知言語学の
外部からの刺激により、
その研究を展開させよう
という試み

『認知言語学を拓く』収録論文

第1部 フィールド言語学と認知言語学

- 第1章 バスク語の名詞文・形容詞文の文法と意味（石塚政行）
- 第2章 意図と知識—タガログ語の ma- 動詞の分析—（長屋尚典）

第2部 中国語研究と認知言語学

- 第1章 中国語の攻撃構文における臨時動量詞の意味機能（李菲）
- 第2章 行為の評価からモノの属性へのプロフィール・シフトについて—中国語の難易度を表す形容詞の事例から—（三宅登之）
- 第3章 中国語主体移動表現の様相—ビデオクリップの口述データに基づいて—（小嶋美由紀）
- 第4章 中国語における直示移動動詞の文法化—[動作者名詞句 + 来 + 動詞句] の“来”の意味と文法化の道筋—（相原まり子）

第3部 語用論と認知言語学の接点

- 第1章 認知言語学と関連性理論（西山佑司）
- 第2章 なぜ認知言語学にとって語用論は重要か—行為指示の動詞と項構造—（高橋英光）
- 第3章 日本語の語用選好と言語特性—談話カプセル化を中心に—（加藤重広）
- 第4章 提喩論の現在（森雄一）

第4部 言語変化と認知言語学

- 第1章 認知言語学と歴史語用論の交流を探る—MUSTの主観的義務用法の成立過程をめぐって—（眞田敬介）
- 第2章 譲歩からトピックシフトへ—使用基盤による分析—（大橋浩）
- 第3章 ノダ文の通時態と共時態（野村剛史）
- 第4章 副詞の入り口—副詞と副詞化の条件—（小柳智一）

『認知言語学を紡ぐ』収録論文

第1部 規則性と変則性のあいだ

- 第1章 日本語母語話者による英語メトニミー表現解釈における知識と文脈の役割（有菌智美）
- 第2章 レトリックの認知構文論—効果的なくびき語法の成立基盤—（小松原哲太）
- 第3章 創造的逸脱を支えるしくみ—Think differentの多層的意味解釈と参照のネットワーク—（鈴木亨）
- 第4章 母語話者の内省とコーパスデータで乖離する容認度判断—the reason... is because... パターンが妥当と判断されるとき—（八木橋宏勇）

第2部 認知意味論の諸相

- 第1章 生物の和名俗名における意味拡張（永澤済）
- 第2章 百科事典的意味の射程—ステレオタイプを中心に—（靱山洋介）
- 第3章 現代日本語における名詞「名」の多義性をめぐって（野田大志）

第3部 構文論の新展開

- 第1章 英語の接続詞 when —「本質」さえ分かっていたら使いこなせるのか—（平沢慎也）
- 第2章 打撃・接触を表す身体部位所有者上昇構文における前置詞の選択—hitを中心に—（野中大輔）
- 第3章 日本語における使役移動事象の言語化—開始時使役 KICK 場面を中心に—（古賀裕章）
- 第4章 英語における中間構文を埋め込んだ虚構使役表現について（本多啓）
- 第5章 主要部内在型関係節構文の談話的基盤（野村益寛）

第4部 認知言語学から見た日本語文法

- 第1章 再帰と受身の有標性（長谷川明香・西村義樹）
- 第2章 再帰代用形「自分」と Image SELF—言語におけるリアリティをめぐって—（井川壽子）
- 第3章 非情の受身の固有性問題—認知文法の立場から—（張莉）
- 第4章 日本語受身文を捉えなおす—〈変化〉を表す構文としての受身文—（田中太一）

今までの蓄積を活かしつつ、
新たな認知言語学の世界を
創りあげようという試み